

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名： 自然生命科学研究支援センター

部局長名： 窪木 拓男

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
		<ul style="list-style-type: none"> ・組換えDNA実験教育訓練9回実施(うち留学生用英語教育訓練2回)、組換えDNA実験の再教育訓練用moodle作成(来年度より実施)、有料のマウス・ラット初心者講習会17回実施(56名参加)、動物資源部門において教育訓練を17回実施(433名受講)する等、自然生命科学研究支援センター内の各部門において、各種教育訓練を実施することで、学内のコンプライアンス教育を推進した。 ・日本アイソトープ協会と協同して放射線業務従事者向けの講習会及び実習を実施、ゲノム・プロテオーム解析に関する機器講習・実技講習・利用説明会を計7件実施、動物資源部門鹿田施設において利用者研修会14回開催(202名参加)、分析計測・極低温部門において共用機器利用説明会を10機種で15回開催するとともに分析例集・装置マニュアル・ビデオ等の作成・公開計3件及び個別分析相談及び安全教育の受付計39件実施する等、自然生命科学研究支援センター内の各部門において、各種研修会、セミナー及び講習会を開催することで、利用促進及び利用者のスキルアップに貢献した。 ・光・放射線情報解析部門における教養教育講義・実習6科目、専門教育講義・実習2科目、大学院講義1科目並びにゲノム・プロテオーム解析部門における博士2名、修士5名、学部生9名の研究・教育指導を実施する等、本学の自然生命科学研究分野の教育の高度化に貢献した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研究成果を論文として公表した。(光・放射線情報解析部門:3報、ゲノム・プロテオーム解析部門:2報、動物資源部門:1編(アクセプト)、分析計測部門:12件) ・教職員の研究成果を学会で発表した。(光・放射線情報解析部門:5件、ゲノム・プロテオーム解析部門:2件(公演)、分析計測・極低温部門:10件) ・教職員は外部研究資金獲得のための応募を行った。(光・放射線情報解析部門:2件(科研費1件・財団助成金1件(獲得))、ゲノム・プロテオーム解析部門:6件、動物資源部門:3件(科研費研究代表者分継続1件・新規2件)、分析計測・極低温部門:8件) ・教職員は学内外における共同研究を推進した。(光・放射線情報解析部門:4件、ゲノム・プロテオーム解析部門:14件(うち学外9件、学内5件)、動物資源部門:2件(うち学外1件、学内1件)、分析計測・極低温部門:12件) ・光・放射線情報解析部門と分析計測部門の教職員が共同研究を行い、本学の自然生命科学研究分野の研究の高度化に貢献した。
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
		<ul style="list-style-type: none"> ・関連学協会を通じた国の放射線関連法令施策への協力・助言を行う他、関連領域の学会及び協議会の運営に携わることで、積極的に国や学会等へ関与し、自然科学研究分野の発展等に寄与した。(日本アイソトープ協会(本部理事・支部長)、日本原子力学会(支部委員)、大学等放射線施設協議会(理事)及び国立大学アイソトープセンター会議(加盟校)の運営、動物実験関連領域の学会及び協議会等の運営) ・自然生命科学研究支援センター内の各部門において実施する各種講習会を学外開放することで、学外向けサービスを積極的に推進した。(日本アイソトープ協会の放射線施設開放事業への参画、日本アイソトープ協会と協同した放射線業務従事者向けの講習会・実習の実施、ゲノム・プロテオーム解析に関する機器講習・実技講習・利用説明会を計4件学外開放。マウスラット上級技術講習会の開催。共用機器利用説明会(分析計測・極低温部門)を5機種7回開催。) ・臨床医への法定放射線教育訓練の実施や臨床医教育の実施場所として動物実験施設を活用することで、臨床医教育に寄与する。 ・学外へのプロテオーム受託サービス7件(18サンプル358,000円)、学外への共同機器利用(ゲノム・プロテオーム解析部門)2件(4サンプル41,800円と105時間115,500円)、学外への依頼分析サービス(分析計測・極低温部門)7項目(有機微量元素分析、質量分析、NMR測定、X線回折、結晶構造解析、ペプチド配列解析、表面解析)48研究室で合計425件の利用、全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会への参画、中国地区バイオネットワーク連絡会参画、国立大学法人機器・分析センター協議会幹事1名、有機微量分析標準試料検定小委員会委員1名、質量分析技術者研究会2023年世話人1名、SPRING-8との連携協定締結、産学官連携との連携による技術相談等の提供により、大学間連携や地域産業へ貢献した。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
		<ul style="list-style-type: none"> ・自然生命科学研究支援センター内の各部門が保有する設備・機器等の定期的な保守管理、機能維持、法令遵守に努めるとともに、共用利用可能な機器の整備及び利用促進を行うことで、本学の研究基盤を強化した。(ゲノム・プロテオーム解析部門による組換えDNA実験の安全管理に関する講習会(4回)及び機器利用の講習会(8回)への参加、動物資源部門津島北施設における運転コスト見直し計画の立案及び利用料金の見直しの実施、分析計測・極低温部門による機器管理者と協力した全17測定室の共用公開機器45機器(うち直営34機器、他部局設置11)の適切かつ安全な管理運営及び保有する機器の更新(概算要求採択(機能性分子構造精密解析システム5台)等。) ・ゲノム・プロテオーム解析部門の利用研究室数30、利用者数278、論文数233(うちQ1論文割合58.4%、Top10%論文割合10.3%)、岡山大学Q1論文割合:50.3%、Top10%論文割合:8.6%) ・分析計測・極低温部門において、各機器の論文実績を掲載した広報誌の公開、論文収集の実施、15名(訓練生7人、セミマイスター7人、マイスター1人)の訓練・労務管理、設備リユース・設備共同利用の仲介WEBシステムを運営したりユース機器10件・共用機器554件の情報公開、イベントや設備サポート情報等のお知らせ30件公開、機器別利用実績をWEB公開・論文実績を広報誌で発行。なお、一時期ヘリウム液化装置が故障したため、その間NMR装置群に対しては液体ヘリウムを外部から購入して配給した。
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	12-2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・TCカレッジのサテライト校として、医工系コースのカリキュラム編成に参画することで、技術職員の高度化に貢献した。 ・全学共同利用研究施設の管理・共用運用への支援を行うとともに、研究設備機器共用システムであるコアファンクショナル(CFPOU)への装置登録を率先し、新機能の試行を担当することで、研究設備・機器の全学的マネジメントを推進した。(CFPOUへ約250台の共用機器を公開。CFPOUを活用した会計処理のDX化及びIR機能の企画・試行・調整。CFPOUへ共用装置別の論文実績収集機能を追加し、研究業績評価システム及びPureとの連携を進めることでIRを促進。CFPOUを活用した論文収集の実施(試行中。) ・組換えDNA実験計画書申請件数335件(審査会39回)(2024年3月18日時点)。組換えDNA実験の申請と審査の効率化WGで新しいWeb申請・審査システムを計画・立案。遺伝子組換えマウス飼育管理(搬入数1111匹)、動物資源部門とゲノム・プロテオーム解析部門が連携して、動物実験計画書と組換えDNA実験計画書の審査の効率化を図った。 ・動物実験計画書948件の事前審査を実施及び動物実験管理システムの改良により審査を迅速化し、繁忙期を除き平均30日承認を実現した。 ・ゲノム・プロテオーム解析部門と分析計測・極低温部門が連携し、質量分析装置の全学管理の検討を開始した。 ・ゲノム・プロテオーム解析部門において、リモート可能な自動分注装置及び機器の自動化を推進した(リモート化・スマート化)。 ・学内のプロテオーム受託サービス19件(56サンプル、2,190,000円)。 ・分析計測分野の利用研究室(設備NW登録)が221研究室となり、昨年度より4研究室増加するとともに、学内依頼分析サービス利用は7項目合計で445件となった。 ・設備リユース成立3件、共用機器利用相談学内52件、学外38件。 ・分析計測・極低温分野において設備技術関連の広報を172件配信。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(※該当がある場合のみ)
 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	
対応状況	